

桜美林大学 加齢・発達研究所

平成 23 年度 研究活動一覧

<著書>

- 1) 芳賀博、「社会貢献、社会参加、プロダクティブ・エイジング」、ストレス科学事典（日本ストレス学会、財団法人パブリックヘルスリサーチセンター監修）、実務教育出版、東京、2011.
- 2) 長田久雄、井藤英喜・高橋龍太郎・是枝祥子監修、写真でわかる生活支援技術、感覚機能・記憶機能からみる加齢による知覚・精神の働きの変化、インターメディカ、2011. 4. 10. 18-21
- 3) 長田久雄、日本臨床増刊号、認知症学下、老年社会科学からみた認知症、日本臨床社、2011. 12. 20. 588-591
- 4) 長田久雄・佐藤美和子、日本認知症ケア学会編（長田久雄担当委員長）、認知症ケア基本テキスト BPSD の理解と対応、第 1 章 認知症の行動・心理症状の考え方、ワールドプランニング、2011. 9. 15. 3-11
- 5) 白澤政和：「岡村理論とソーシャルワークの関係」『岡村理論の継承と展開第 1 巻 社会福祉原理論』右田紀久恵・白澤政和監修、松本英孝・永岡正巳・奈倉道隆編、ミネルヴァ書房、pp. 170～183（2012）
- 6) 白澤政和：『「介護保険制度」のあるべき姿 利用者主体のケアマネジメントをもとに』筒井書房 pp. 1～246（2011）
- 7) 白澤政和：『キーワードでたどる 福祉の 30 年』中央法規出版、pp. 1～366（2011）
- 8) 柴田博，新野直明，兪今：はつらつとしたセカンドライフを送るために．ダイヤモンド新書 32，2012
- 9) 柴田博：メタボ基準にだまされるな．医学同人社， 2011
- 10) 生活・福祉環境づくり 21・日本応用老年学会編：高齢者の「生・活（いき・いき）」事典（編集長 柴田博）．社会保険出版社， 2011
- 11) 高田佳子『笑いヨガー笑うのに理由はいらない』（日本笑いヨガ協会）
- 12) 柴喜崇(分担)：IV. 章 中高年者の動きの特性 1. 機能解剖からの視点. 編集 北川薫 健康・スポーツ科学テキスト 機能解剖・バイオメカニクス、pp172-pp183 文光堂, 2011
- 13) 柴喜崇(分担)：総論 理学療法に関するリスクマネジメント. 監修 奈良勲、編集 松尾善美 パーキンソン病の理学療法 医歯薬出版株式会社 pp101-111, 2011
- 14) 仙波由加里：第 3 章 代理出産. シリーズ生命倫理学第 6 巻 生殖医療（菅沼信彦，

盛永審一郎編), pp. 45-64, 丸善出版, 東京(2012)

- 15) 久喜 美知子:公衆栄養プログラムの展開,コンパクト公衆栄養学 第2版(梶本雅俊、他,編),朝倉書店,2012, p108-115.
- 16) 山元恵子編,高橋亮編集協力 兼「第3章」一部執筆.小児看護ベストプラクティス 小児看護とアレルギー疾患,中山書店,2011.

<論文>

- 1) 新井智之, 柴喜崇, 柴田博, 桑原慶太, 藤田博暁: 高齢運動器疾患患者の転倒にかかわる運動機能の検討. 運動・物理療法 22: 338-344, 2011
- 2) 安 順姫, 芳賀博, 兪今, 介護予防ボランティア登録者の活動への参加頻度に関連する要因, 老年学雑誌, 2, 1-13, 2012.
- 3) 安斎紗保理, 柴喜崇, 芳賀博, 地域在住高齢者の運動機能低下に関連する身体の痛み, 日老医誌, 49 (2), 2012.
- 4) 荒井浩道, 袖井孝子, 澤岡詩野ほか: 社会的孤立防止にむけた都市中高年者の ICT 利用に関する研究; テキストマイニングによるナラティブ・データの分析, 駒澤社会学研究, 43: 81-104(2011).
- 5) 荒山直子, 植木章三, 島貫秀樹, 本田春彦, 岡田徹, 江端真伍, 河西敏幸, 高戸仁郎, 犬塚剛, 芳賀博, 介護予防活動に携わる高齢ボランティアリーダーの身体的および精神的健康に関する活動支援の効果, 保健福祉学研究, 9, 15-29, 2011.
- 6) 新井智之, 柴喜崇, 渡辺修一郎, 柴田博: 10m歩行における歩行周期変動と運動機能, 転倒との関連 -小型加速時計を用いた測定-. 理学療法学 38(3) 165-172, 2011
- 7) 新井智之, 柴喜崇, 角田賢史, 渡辺修一郎, 柴田博: 虚弱高齢者の転倒と運動機能との関連. 老年学雑誌, 1(1): 1-14, 2011.
- 8) 今井幸充, 長田久雄, 本間昭, 萱間真美, 三上裕司, 加藤伸司, 木村隆次, 石田光広, 沖田裕子, 遠藤英俊, 池田学, 半田幸子, 認知機能障害を伴う要介護高齢者の日常生活動作と行動・心理症状を測定する新評価票, 2011. 10. 20, 老年精神医学雑誌, 第 22 巻第 10 号, 1155-1165
- 9) 石原房子・長田久雄, Tornstam の老年的超越尺度の構造の検討, 2011. 6. 30, 応用老年学, 第 5 巻 1 号, 20-27
- 10) 上野佳代; 要介護者とその家族のデイサービス利用に対する抵抗感の研究老年学雑誌, 57-71, 2012
- 11) 大室和也, 柴喜崇, 大淵修一, 高平尚伸: 地域在住高齢女性における足部重錘負荷歩行が膝関節前方動揺量および半腱様筋活動に及ぼす影響. 理学療法科学 26(1): 55-59, 2011
- 12) 柿沼美紀・上村佳世子・高橋桃子・宮尾益知・廣中直行・上林靖子・丹羽洋子・長田久雄・小林登, 低身長児の生活の質評価に関する研究: 心の問題スクリーニングに向けて, 2011. 8. 1, 公益財団法人法事成長科学協会研究年報 (平成 22 年度), 第 34 号, 65-71
- 13) 角奈那子, 柴喜崇, 大室和也, 大淵修一: 若年女性を対象とした歩行時の膝関節前後動揺量に影響を与える身体要因. 運動・物理療法 (J. Physical Medicine) 22(1): 41-48, 2011
- 14) 久喜美知子: 宅虚弱高齢者の栄養改善プログラムの検討, 老年学雑誌 第 2 号, 桜美林大学大学院老年学研究科, 2012, p 15-30.

- 15) 久慈直昭, 清水清美, 仙波由加里, 安藤浩子, 江原明子, 坂中弘江: A R T 出生児の品質管理・生殖医療の新たな枠組み構築～非配偶者間人工授精における告知と出自を知る権利に関する研究～. 厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業) 分担研究報告書, 印刷中
- 16) 桑原知佳, 柴喜崇, 坂本美喜, 佐藤春彦, 金子誠喜: 発達に伴う健常児の背臥位からの立ち上がり動作の変移ー6年間縦断調査による動作パターンおよび動作所要時間の変化ー. 理学療法学 38(7): 505-515, 2011
- 17) 小玉敏江: ウェルネス型健康チェック表を用いて評価した地域高齢者の健康生活. 看護診断 16(1), p. 13-22. 2011
- 18) 小林久子, 綿森淑子, 長田久雄, 在宅失語症者の家族の介護負担感評価, 2011. 7. 15, 言語聴覚研究, 第8巻第2号, 104-112
- 19) 佐藤加奈, 新野直明, 他: デイサービス利用高齢者における口腔関連 QOL とその関連要因, 聖徳大学研究紀要, 21, 7-13, 2011.
- 20) 佐藤美由紀, 齋藤恭平, 芳賀 博, 地域高齢者の家庭内役割と QOL の関連, 日本保健福祉学会誌, 17 (2), 11-19, 2011.
- 21) 斎藤民, 甲斐一郎, 杉澤秀博, 柴田博. (2011). 高齢者の居住継続性とその関連要因ー別荘地に移住した高齢者への5年間の追跡研究. 老年社会科学 33(3), 385-394.
- 22) 桜井良太, 藤原佳典, 金憲経, 齋藤京子, 安永正史, 野中久美子, 小林和成, 小川貴志子, 吉田裕人, 田中千晶, 内田勇人, 鈴木克彦, 渡辺修一郎, 新開省二: 温泉施設を用いた複合的介入プログラムの有効性に関する研究ー無作為化比較試験による検討. 日本老年医学会雑誌, 48 (4): 352-360, 2011.
- 23) 澤岡詩野, 古谷野亘: 社会関係の研究において用いられている非親族との関係の指標; 日本の高齢者を対象とした最近の実証研究のレビュー, 老年社会科学, 33(1): 47-59(2011).
- 24) 柴田博: 老化概念の変遷. 応用老年学 5:4-8, 2011
- 25) 白澤政和: 「ソーシャルワークが施策と良好な循環をする要件ー日本における高齢者領域でのケアマネジメントの展開から学ぶー」『新たな社会福祉学の構築ー白澤政和教授退職記念論集』中央法規出版, pp. 2~14 (2011)
- 26) 白澤政和: 「韓国の高齢者長期療養保険制度の現状ー日本との比較をもとにー」『ケアマネジメント学』No.9, 2011. 3, 日本ケアマネジメント学会, pp. 57~63 (2011)
- 27) 白澤政和: 「近未来の社会福祉の枠組みと仕組み: 環境・医療・福祉政策とソーシャルワークの好循環を求めてーソーシャルワークが施策と良好な循環をする条件」『社会福祉学』Vol. 52, No. 2, pp. 142~149 (2011)
- 28) 白澤政和: 「第10章介護と介護保険編 1~3, 6」『「生・活」知識検定試験公式テキストーニッポンのネクストステージー高齢社会の「生・活」事典』, NPO 法人生活・福祉環境づくり 21・日本応用老年学会編著, 社会保険出版社, pp. 220~227, 234~235 (2011)

- 29) 白澤政和：「第3章支援技術の基礎 8 対人援助の基本—ケアマネジメント—」『はじめて働くあなたへ—よき支援者を目指して—』日本知的障害者福祉協会編集・発行、pp. 104～108 (2011)
- 30) 白澤政和：「地域包括支援センターに求められるネットワーキングの力」『達人ケアマネ』第6巻第3号、日総研出版、pp. 13～17 (2012)
- 31) 白澤政和：「日本の高齢社会の特徴」pp. 56～59、「介護保険制度の枠組みと改正点」pp. 60～63、「介護保険サービスの種類と内容」pp. 64～67、「二〇二五年の高齢者ケアと地域包括ケアの推進」pp. 68～71『NHK 社会福祉セミナー』2011. 12～2012. 3月号、日本放送出版協会 (2011)
- 32) 白澤政和：「被災地域での生活支援に関する提案：ソーシャルワークの視点から」『東日本大震災と知の役割』桜美林大学国際学研究所編、勁草書房、pp. 157～168 (2012)
- 33) 杉澤秀博，杉原陽子. (2011). 特定高齢者における介護予防サービスへのアクセスの阻害要因. 厚生指標 58(7), 6-12.
- 34) 杉澤秀博，杉原陽子. (2011). 特定高齢者の候補者の健診受診に対する社会的ネットワークの直接および間接効果—一般高齢者との対比. 日本公衆衛生雑誌 58(9), 743-753.
- 35) 杉澤秀博，石川久展，杉原陽子. (2012). 民生委員を通じた閉じこもり高齢者把握の可能性. 日本公衆衛生雑誌，掲載確定.
- 36) 杉澤秀博. (2012). 高齢透析患者の介護-透析患者に対する全国調査からみた実態. 臨床透析 28(1), 55-62.
- 37) 鈴川芽久美，島田裕之，渡辺修一郎，小林久美子，鈴木隆雄：要介護高齢者における運動機能と6ヵ月後のADL低下との関係. 理学療法学, 38 (1) : 10-16, 2011.
- 38) 仙波由加里：不妊治療と補完代替医療の関係性—米国の現状を概観して. 医学哲学と倫理，印刷中
- 39) 仙波由加里：米国の初等・中等・高等教育におけるエイジング教育. 老年学雑誌, 2: pp. 73-83 (2012)
- 40) 袖井孝子・荒井浩道・澤岡詩野ほか：「無縁社会を超えて—ICT 利用による高齢者の孤立化防止」に関する調査報告，エイジレスフォーラム, 9 : 52-59(2011).
- 41) 高橋亮、長田久雄、横谷進、板橋家頭夫、清野佳紀、田中敏章. SGA 性低身長児における成長ホルモン治療効果の心理社会的特徴に関する検討, 日本成長学会雑誌, 17 巻 2 号, 2011.
- 42) 田中孝祥，佐藤春彦，上出直人，柴喜崇：ジャイロ併用型加速度計による歩行中の体幹加速度計測の信頼性：傾斜角に基づく重力加速度補正. バイオメカニズム学会誌 36(1), 36-40., 2012
- 43) 田中敏章、五十嵐裕、大藺恵一、大山健司、小山正道、長田久雄、鬼形和道、神崎晋、河野斉、清野佳紀、高橋弘昭、田島敏広、立花克彦、田中弘之、西和美、長谷川奉延、

藤枝憲二、藤田敬之助、堀川玲子、横谷進、依藤亨、高用量 GH 治療によるターナー症候群の治療効果：ターナー症候群 GH 治療協同研究 (TRC) の 7 年間の治療経験、2011. 4、日本成長科学雑誌、第 17 巻 1 号、9-15

- 44) 鄭尚海・白澤政和他：「認知症高齢者の行動・心理症状 (BPSD) を改善するための支援の視点：特別養護老人ホームの介護職員による改善事例に対する質的分析をもとに」『生活科学研究誌』 Vol. 9、pp. 85～94 (2011)
- 45) 直井道子. 一人暮らし高齢者とその支援—家族と地域から— 『都市社会研究』 no. 4 36-50 せたがや自治政策研究所
- 46) 畑亮輔・岡田進一・白澤政和：「居宅介護支援事業所の介護支援専門員による家族へのアセスメントと家族介護者支援との関連」『介護福祉学』 Vol. 18-No.2、pp. 112～121 (2011)
- 47) 畑亮輔・岡田進一・白澤政和：「居宅介護支援事業所の職場環境と介護支援専門員による家族介護者支援との関連」『生活科学研究誌』 Vol. 9、pp. 73～84 (2011)
- 48) 芳賀 博、アクションリサーチによる健康長寿のまちづくり、日老医誌、49 (1)、33-35、2012.
- 49) 森本寛訓、神田有希恵、長田久雄、対人援助職者の感情状態と関連する職業生活出来事の検討、2011. 7. 22、ヒューマン・ケア研究、第 12 巻第 1 号、35-51
- 50) 山崎幸子、新野直明、他：高齢期うつに対する心理学的アプローチの展望、老年社会科学、33、216、2011
- 51) 吉澤恵美、杉澤秀博. (2012). 家族介護者の認知症に関する理解度が介護負担感に与える効果. 老年学雑誌, 掲載確定.
- 52) 渡辺修一郎：生体リズムを整えましょう. 美感遊訓, 104 : 7-10, 2011.
- 53) Emiko Saito, Seiji Yasumura, Chikako Kaneko, Shouzoh Ueki: Comparison of characteristics and care-needs certification proportion between participants and non-participants in a geriatric health examination over a 3-year follow-up. Arch. Gerontol. Geriatr. 53 (2011) e46-e50.
- 54) Kamide N, Takahashi K, Shiba Y: Reference values for the Timed Up and Go test in healthy Japanese elderly people: determination using the methodology of meta-analysis. Geriatr Gerontol Int 11:445-451, 2011
- 55) Masakazu Shirasawa: “A historical change in social work education and the problems of present practicum education in Japan [in Japanese]: Social work field education and supervision across Asia Pacific” : Sydney University Press 2011, pp. 281～295 (2011)

<学会発表>

- 1) 綾部貴子・白澤政和他：「在宅高齢者に対する訪問看護・訪問介護・居宅介護支援のチーム活動に関する研究（１）－基本属性との関連－」『第 10 回日本ケアマネジメント学会研究大会抄録集』2011. 6. 16～17、日本ケアマネジメント学会、pp. 94（2011）
- 2) 綾部貴子・白澤政和他：「在宅高齢者に対する訪問看護・訪問介護・居宅介護支援のチーム活動の実践度に関する要因（２）対象者の特性とチーム活動にかかわる社会資源情報に焦点をあてて」第 16 回日本在宅ケア学会学術集会、東京、pp. 125（2012）
- 3) 綾部貴子・白澤政和他：「在宅高齢者に対する訪問看護・訪問介護・居宅介護支援のチーム活動の達成状況と達成度の構造」『老年社会科学 第 53 回大会報告要旨号』2011. 6. 16～17、日本老年社会学会、pp. 357（2011）
- 4) 荒井浩道・袖井孝子・澤岡詩野・森やす子・鈴木昭男：都市高齢者の ICT 利用による孤立防止に関する探索的研究；テキストマイニングによるナラティブ・データの可視化．第 53 回日本老年社会学会大会(2011/06)
- 5) 荒居和子、芳賀博、兪今、成人後期及び前期高齢期における身長と体重の変化―ある女性の 20 年間毎日朝と夜測定した記録から見えるもの―、第 76 回日本民族衛生学会、福岡、2011 年 11 月
- 6) 安斎紗保理、岡本秀明、斉藤恭平、佐藤美由紀、木村みどり、山崎幸子、安村誠司、大沼由香、高橋和子、芳賀博、地域在住高齢者の社会的ネットワークに関する要因―世帯構成別の検討―、第 70 回日本公衆衛生学会、秋田、2011 年 10 月
- 7) 安斎紗保理、芳賀博、植木章三、地域在住高齢者の骨関節系の痛みに関連する心理・社会・身体的要因、第 6 回日本応用老年学会、神戸、2011 年 11 月
- 8) 安順姫、兪今、兪峰、咸永煥、張慶稿：中国東北農村地域における高齢者の社会参加に関連する要因. 第 53 回老年社会科学大会；東京 2011
- 9) 安順姫、兪峰、崔範日、張慶稿、咸永煥、金成龍、兪今：中国東北地域高齢者における社会的ライフスタイルとその関連要因．第 76 回日本民族衛生学会総会講演集, 2011；254-255
- 10) Shunji An, Jin Yu, feng Yu: Effects of Physical and Mental Health Status on Depressive Symptoms Among Older Adults Residing in Rural DongBei Area of China. 9th Asia / Oceania Congress of Geriatrics and Gerontology October 23-27, Melbourne, Australia；2011
- 11) Hajime Iwasa, Ichiro Kai, Yukie Masui, Yasuyuki Gondo, Chieko Kawaai, Hiroki Inagaki Personality and body mass index among Japanese community-dwelling older adults. Ninth Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics, Melbourne. 2011.10. 20-29
- 12) Ikeuchi, T., & Osada, H., Characteristic of emotion regulation in older Japanese adults., 2011.11.18-22, 2011 Late Breaker Poster Sessions, LB9, Gerontological

- Society of America 64th Annual Scientific Meeting, Boston, Massachusetts, USA.
- 13) Ikeuchi, T., Harigane, M., Ishihara, F., & Osada, H., The association between resilience and depression in community-living older adults in Japan.、2010. 11. 19-23、The Gerontologist Program Abstracts 63rd Annual Scientific Meeting、Gerontological Society of America 63rd Annual Scientific Meeting、New Orleans, Louisiana, USA.
 - 14) Ikeuchi, T., Toyota, F., & Osada, H., Discrepancies between attitudes toward falling and drowning and taking prevention measures in Japan.、2011. 11. 18-22、The Gerontologist Program Abstracts 64th Annual Scientific Meeting、Gerontological Society of America 64th Annual Scientific Meeting、Boston, Massachusetts, USA.
 - 15) 稲葉康子, 柴喜崇, 上出直人, 芳賀博: 中山間地域在住高齢者の脊柱後彎と身体機能, 疼痛および生活機能の関係. 理学療法学 (学会特別号) 38:413, (宮崎), 2011
 - 16) 岩佐 一・甲斐一郎・増井幸恵・権藤恭之・河合千恵子・稲垣宏樹 地域高齢者における性格と体格指数 (Body Mass Index) の関連、第 53 回日本老年社会科学会 2011. 6. 16-17
 - 17) 岩佐 一・甲斐一郎・増井幸恵・権藤恭之・河合千恵子・稲垣宏樹 中高年者における性格が生命予後に及ぼす影響～神経症傾向と外向性の組み合わせ解析～ 日本心理学会日本心理学会第 75 回大会 2011. 9. 15-17
 - 18) 犬塚剛、植木章三、高戸仁郎、本田春彦、荒山直子、河西敏幸、芳賀博、地域在住高齢者における BMI と生活機能低下の関連、第 70 回日本公衆衛生学会、秋田、2011 年 10 月
 - 19) 入江由香子、植木章三、吉田裕人、本田春彦、高戸仁郎、犬塚剛、荒山直子、河西敏幸、芳賀博、基本チェックリストにより特定高齢者候補者が選出される項目群と医療費に及ぼす影響、第 70 回日本公衆衛生学会、秋田、2011 年 10 月
 - 20) 上野佳代・長田久雄、老人福祉センター利用のきっかけとなる動機、2011. 6. 17-18、老年社会科学会第 53 回大会、ハイアットリージェンシー東京
 - 21) 植田拓也, 柴喜崇, 畠山浩太郎, 中村諒太郎: 新しい脊柱後彎変形の定量的測定法の検討 ―小型ジャイロセンサーを用いた測定の再現性及び妥当性の検討―. 理学療法学 (学会特別号) 38:038, (宮崎), 2011
 - 22) 植木章三, 高戸仁郎, 本田春彦, 荒山直子, 犬塚剛, 芳賀博: 高齢ボランティアリーダー活動の定着に向けた方策の検討～東北農村部の事例を通じて, 日本公衆衛生雑誌 58(10): 307, 2011.
 - 23) 植木章三, 中野匡子, 斉藤恵美子, 牧上久仁子, 安田誠史, 渡辺幸子, 山崎幸子, 安村誠司: 新規要介護認定発生に関する長座位立ち上がり時間の予測的妥当性―LOVING プロジェクト―, 老年社会科学 33(2): 282, 2011.

- 24) Shinich Okada, Hitoka Nango, Ryosuke Hata, Masakazu Shirasawa: "Care Managers' Collaborations with Physicians in Japan: Concerning the Information Exchanges about their Clients" 21st Asia-Pacific Social Work Conference, Tokyo, Japan, 2011.7.15~18, pp.271 (2011)
- 25) Chieko Kawaai A revised and shortened instrument for measuring psychological response to spousal bereavement among the elderly. 2ND International Congress on Gerontology and Geriatric Medicine, Delhi 2012.2.25-29
- 26) Chieko Kawaai, Ryutaro Takahashi: Effects of creating a "Life Story Book" on psychological measures among frail elderly in Japan. Ninth Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics, Melbourne. 2011.10. 20-29
- 27) Sachiko Kasahara, Masakazu Shirasawa: "A study on the job satisfaction among chief homemakers" 9th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics, Melbourne, Australia, 2011.10.23~27, pp.143~144 (2011)
- 28) 加藤佐千子・長田久雄、クラスター分析を利用した高齢者の食物選択動機用語の抽出に関する検討、2011.5. 27-29、日本家政学会研究発表要旨集、98、日本家政学会第63回大会、和洋女子大学
- 29) 河西敏幸、植木章三、高戸仁郎、犬塚剛、本田春彦、芳賀博、地域高齢者へのリーダー主導型及び教室併用型の運動介入が体力自己評価に及ぼす影響、第70回日本公衆衛生学会、秋田、2011年10月
- 30) 梶井, 文子; 亀井, 智子; 山本, 由子; 新野, 直明; 神山, 裕美; 杉本, 知子: 在宅認知症高齢者と家族をケアする多職種間での評価の相違を検討しあう意味-評価 web システム利用後の介護支援専門員へのインタビューから-, 第16回日本老年看護学会学術集会. 東京、2011年6月
- 31) 梶井文子、新野直明、他: 多職種間連携に必要な在宅認知症高齢者と家族に関するアセスメント・評価項目の検討: 第12回日本認知症ケア学会、横浜、2011年9月
- 32) 咸永煥、金成龍、崔範日、張慶稿、安順姫、兪峰、兪今: 健康診断結果からみた中国東北地域住民における生活習慣病実態と危険因子の検討. 第76回日本民族衛生学会総会講演集, 2011; 242-243
- 33) Eunjung Kim, Shinichi Okada, Masakazu Shirasawa, Moon Jongseong: "Correlates of Depression among the old Korean of Japan: Health, Social Support and Adjustments" 21st Asia-Pacific Social Work Conference, Tokyo, Japan, 2011.7.15~18, pp.267 (2011)
- 34) 北井純子: 有料老人ホームに居住する高齢者の精神的健康に与える社会的ネットワークの効果 日本老年社会科学学会第53回大会 一般広告 (ポスター発表)
- 35) 木村みどり、山崎幸子、安村誠司、高橋和子、大沼由香、岡本秀明、斉藤恭平、佐藤美由紀、安斎紗保理、芳賀博、要介護認定の有無別による地域高齢者の社会活動に関

連する要因、第 70 回日本公衆衛生学会、秋田、2011 年 10 月

- 36) 久米喜代美・山口創、グループワークにおける初期不安低減プログラムの介入研究—からだからのアプローチ、2011.09.11-12、日本健康心理学会第 24 回大会発表論文集、日本健康心理学会、早稲田大学国際会議場
- 37) 桑原知佳, 柴喜崇, 佐藤春彦, 坂本美喜, 金子誠喜: 背臥位からの立ち上がり動作所要時間の発達に伴う変化 —健常児の 6 年間縦断調査—. 理学療法学 (学会特別号) 38:139, (宮崎), 2011
- 38) 小浦さい子: 「特別養護老人ホーム入居者の食事介助で介護職員が感じる不安の背景と対応」 53 回日本老年社会学会示説発表 (2011. 6 月 8 日)
- 39) 古谷野亘・澤岡詩野・本田亜起子: ひとり暮らし後期高齢者における IADL の自立と遂行. 第 53 回日本老年社会学会大会 (2011/06)
- 40) Emiko Saito, Chikako Kaneko, Shouzoh Ueki, Seiji Yasumura: Which is at increased risk for certification of long-term care need in elderly people: living alone or living with a spouse only in Japan, Sigma Theta Tau International' s 22nd International Nursing Research Congress, 2011.
- 41) Shino Sawaoka, Wataru Koyano, Akiko Honda: Preference in Social Relations with Neighbors Among the Old-old Living Alone in Tokyo. 9th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics (2011/10)
- 42) 佐藤美由紀、斉藤恭平、若山好美、堀籠はるえ、芳賀博、地域貢献意識が高い高齢者におけるボランティア活動の関連要因、第 70 回日本公衆衛生学会、秋田、2011 年 10 月
- 43) 佐藤美由紀、芳賀博、斉藤恭平、若山好美、堀籠はるえ、矢野麗子、鈴木祐子、小地域における高齢者の役割見直しと創造を目指したプログラムの展開過程 (第 1 報) —住民とともに歩むアクションリサーチ、第 53 回日本老年社会学会、東京、2011 年 6 月
- 44) 佐藤美和子・長田久雄、介護職における認知症高齢者の攻撃行動に対する意識と介護負担、 2011.6.17-18、307、老年社会科学 33(2)、老年社会学会第 53 回大会、ハイアットリージェンシー東京
- 45) 桜井良太, 藤原佳典, 金憲経, 齋藤京子, 深谷太郎, 安永正史, 金美芝, 田中千晶, 渡辺修一郎, 小川貴志子, 鈴木克彦, 小林和成, 西川武志, 吉田裕人, 新開省二: 温泉施設を活用した複合的介入プログラム“すぷりんぐ” 介護予防効果の検証. 第 70 回日本公衆衛生学会総会. 2011 年 10 月 20 日.
- 46) 桜井良太, 藤原佳典, 齋藤京子, 安永正史, 金美芝, 小川貴志子, 鈴木克彦, 渡辺修一郎, 新開省二: 温泉利用型健康増進施設を活用した介護予防型総合健康プログラムの開発. 第 53 回日本老年医学会学術集会. 2011 年 6 月 17 日.
- 47) 斉藤恵美子, 牧上久仁子, 安田誠史, 植木章三, 渡辺幸子, 安村誠司: 新規要介護認

定発生に影響する年齢階級別の要因—LOVING プロジェクト：その 1—, 老年社会科学 33(2): 281, 2011.

- 48) 澤岡詩野：大都市における後期高齢男性の社会活動. 第 29 回日本都市社会学会大会 (2011/9)
- 49) 澤岡詩野・古谷野亘・本田亜起子：日常的交流の希薄な高齢者の特徴；大都市のひとり暮らし後期高齢者の調査から. 第 53 回日本老年社会学会大会 (2011/06)
- 50) 齋藤京子, 藤原佳典, 安永正史, 桜井良太, 金美芝, 小川貴志子, 荒木厚, 渡辺修一郎, 鈴木克彦, 新開省二：温泉利用型健康増進施設を活用した生活習慣病予防型総合健康プログラムの開発. 第 53 回日本老年医学会学術集会. 2011 年 6 月 17 日.
- 51) 齋藤京子, 藤原佳典, 桜井良太, 金憲経, 深谷太郎, 安永正史, 金美芝, 西川武志, 小川貴志子, 渡辺修一郎, 鈴木克彦, 田中千晶, 吉田裕人, 新開省二：温泉施設を活用した複合的介入プログラム“すぷりんぐ” メタボ予防効果の検証. 第 70 回日本公衆衛生学会総会. 2011 年 10 月 20 日.
- 52) 齋藤崇志, 大森祐三子, 大森豊, 渡辺修一郎：側方またぎ動作能力と身体機能の関係 女性要介護高齢者における検討. 第 46 回日本理学療法学術大会. 2011 年 5 月 27 日.
- 53) Masakazu Shirasawa, Satoru Yosie, Shinichi Okada, Msaki Fukutomi, Kouji Kishida, Chiemi Hata, Hiroko Shiraki, Hiroko Takasuna: “A Degree of Agreement on Evaluation of User’s QOL Change by Case Managers and Users and a Possibility on Externalization of Case Management Evaluation” The Gerontological Society of America 64th Annual Scientific Meeting, Boston, USA, 2011.11.18~22, pp.34 (2011)
- 54) Yoshitaka SHIBA, Kamide Naoto, Yasuko INABA, Hiroshi HAGA: Multimodal exercise program emphasizing muscle power of the lower limbs increases the walking speed of community-dwelling elderly Japanese. World Confederation for Physical Therapy 20-23, June, (Amsterdam), 2011
- 55) 柴喜崇, 上出直人, 河村晃依：高齢者専用賃貸住宅の住宅が抱える問題と解決策の提案—地域包括センターと大学との協働による取り組み—. 第 2 回 高齢者集合住宅研究大会 5.25 pp.109 (東京都), 2011
- 56) 柴喜崇：シンポジウム 地域在住高齢者における加齢に伴う生活機能の変化. ワークショップ 2012 脳機能計測と在宅運動計測 新学術領域「包括型脳科学研究推進支援ネットワーク」 2.11. (愛知), 2012
- 57) 島田今日子, 山崎幸子, 中野匡子, 斉藤恵美子, 高橋和子, 植木章三, 牧上久仁子, 安田誠史, 渡辺幸子, 安村誠司：同居家族からのソーシャル・サポートが高齢者のうつ傾向に与える影響—LOVING プロジェクト—, 老年社会科学 33(2): 262, 2011.
- 58) 白澤政和：「地震災害に対するソーシャルワークの対応方法と開発—阪神淡路大震災・中越大震災・東日本大震災の経験と教訓から」『中国社会学年会』江西、中国、2011. 7. 24、

pp. 168～197 (2011)

- 59) 白澤政和：シンポジウム「ソーシャルワーク教育と社会福祉士養成の関係」『日本社会福祉教育学会第7回大会』2011. 8. 27～28、pp. 79～87 (2011)
- 60) 白澤政和：講演「社会福祉方法論研究の到達点と課題ー実践と理論の統合に向けてー」『第59回春季大会 資料集』2011. 5. 29、日本社会福祉学会、pp. 2～11 (2011)
- 61) 白澤政和：講演「認知症の人に対するケアマネジメント」『第12回日本認知症ケア学会プログラム・抄録集』2011. 9. 24～25、日本認知症ケア学会、pp. 199 (2011)
- 62) Sugimoto Tomoko, Niino, Naoakira, et al : An exercise habit among the elderly who participated in practical course for prevention of fall-related fracture living in urban community in Japan. 9th Asia / Oceania Congress of Geriatrics and Gerontology. Melbourne, Australia, 2011/10
- 63) 杉本, 知子; 亀井, 智子; 新野, 直明：介護老人福祉施設に入所する高齢者の転倒発生状況-認知症の重症度と日常生活動作能力による比較-、第16回日本老年看護学会学術集会. 東京、2011年6月
- 64) 仙波由加里：2011年11月3日 日本医学哲学・倫理学会主催公開講座「代替・補完医療の可能性と限界の検証」安田ホール 公開講座 講演：不妊治療と代替・補完医療の関係性ー米国の現状を概観して
- 65) Kazuko Tashiro: 15th East Asian Forum of Nursing Scholars Recognition and understanding of day care services among the latter-stage elderly living at home- A comparison between long-term care insurance service users and non-users
- 66) Ryo Takahashi, Yukiko INOUE, Keiko Yamamoto, Toshiko Kazama, Hisao OSADA : Supporting children using play in Japanese hospitals, The 25th European Health Psychology Conference, 2011 (Crete, Greece)
- 67) 田代和子：2011. 12 第31回日本看護科学学会学術集会：介護保険認定外の後期高齢者における「地域支援事業」の参加・継続に関する研究、
- 68) 田代和子：2011. 6 第53回日本老年社会科学会、高齢者に対する地域支援事業を支えるボランティアの参加・継続および発展に関する研究
- 69) 高橋和子、大沼由香、安村誠司、山崎幸子、木村みどり、岡本秀明、斉藤恭平、佐藤美由紀、安斎紗保理、芳賀博、高齢者の社会的ネットワークの規模と地域活動および健康との関連、第70回日本公衆衛生学会、秋田、2011年10月
- 70) 田中千晶、藤原佳典、安永正史、齋藤京子、桜井良太、金美芝、金憲経、内田勇人、荒木厚、渡辺修一郎：温泉利用型健康増進施設を活用する複合健康増進プログラムが及ぼす日常の身体活動量への効果. 第53回日本老年医学会学術集会. 2011年6月17日.
- 71) 武田美津代、中山久美子、桑野タイ子、前田志名子：125事例(経験知)の検討ー第2報：第10回学術集会(東京)

- 72) Toyota, F., Ikeuchi, T., & Osada, H., Attitudes in Japan towards older adults' falling and bathtub drowning, and prevention measures.、2011.11.18-22、The Gerontologist Program Abstracts 64th Annual Scientific Meeting、Gerontological Society of America 64th Annual Scientific Meeting、Boston, Massachusetts, USA.
- 73) 兎澤恵子, 渡辺修一郎, 近藤照彦, 武田淳史: 唾液コルチゾールを用いた森林浴の効果に関する研究. 第 76 回日本温泉気候物理医学会, 2011 年 5 月 14 日.
- 74) 兎澤恵子, 渡辺修一郎, 近藤照彦, 武田淳史: 唾液コルチゾールを用いた認知症高齢者の入浴による影響に関する研究. 第 76 回日本温泉気候物理医学会, 2011 年 5 月 14 日.
- 75) 兎澤恵子, 渡辺修一郎, 深谷太郎, 齋藤京子, 桜井良太, 安永正史, 藤原佳典: 3 ヶ月間の運動訓練が運動及び入浴前後の唾液コルチゾールに及ぼす影響. 第 70 回日本公衆衛生学会総会. 2011 年 10 月 20 日.
- 76) 兎澤恵子, 渡辺修一郎: 唾液コルチゾールを用いた高齢者の日内変動および季節変動に関する基礎的研究. 第 53 回日本老年医学会学術集会. 2011 年 6 月 16 日.
- 77) Michiko Naoi Does information technology make elderly people happier?: Social experiment in Japanese rural area (直井道子 小川晃子) Japanese-Swedish Research Cooperation on Ageing Societies 2011.9.23 ウプサラ大学(スウェーデン)
- 78) 直井道子: 女性のサクセスフル・エイジング 老年社会科学会第 53 回大会 シンポジウム: 団塊の世代のサクセスフル・エイジング 2011.6.17 ハイアットリージェンシー
- 79) 中村諒太郎, 柴喜崇, 安齋紗保理, 植田拓也, 畠山浩太郎: QOL や身体機能の向上は疼痛を軽減させるのか ―運動習慣のある地域在住中高齢者を対象とした調査―. 理学療法学 (学会特別号) 38:414, (宮崎), 2011
- 80) 原田由美子・白澤政和他: 「在宅高齢者に対する訪問看護・訪問介護・居宅介護支援のチーム活動に関する研究 (1) ―三職種の属性の単純集計の分析から―」『老年社会科学 第 53 回大会報告要旨号』2011.6.16~17、日本老年社会科学会、pp.355 (2011)
- 81) 原田由美子・白澤政和他: 「在宅高齢者に対する訪問看護・訪問介護・居宅介護支援のチーム活動の実践度に関する要因 (3) 対象者の特性と他職種連携についての考え方に焦点をあてて」第 16 回日本在宅ケア学会学術集会、東京、pp.126 (2012)
- 82) 畠山浩太郎, 柴喜崇, 植田拓也, 渡辺修一郎: 地域在住中高齢者における運動実施頻度減少群に見られる特徴―身体機能・高次の ADL・QOL に着目して. 第 6 回日本応用老年学会総会. 2011 年 11 月 11 日.
- 83) 芳賀 博、アクションリサーチによる健康長寿のまちづくり、第 27 回日本老年学会総会 シンポジウム 1 健やかな長寿社会に向けての老年学会の取り組み、東京、2011 年 6 月

- 84) 芳賀博、佐藤美由紀、安斎紗保理、安村誠司、都市部における高齢者の社会的ネットワーク形成に関する介入研究：介入地区と対照地区のベースライン調査結果の比較、第6回日本応用老年学会、神戸、2011年11月
- 85) Hyoseung Bae, Shinichi Okada, Masakazu Shirasawa: "The Current Difficulties in Care Management Practice for the Elderly in Japan" 21st Asia-Pacific Social Work Conference, Tokyo, Japan, 2011.7.15~18, pp.272 (2011)
- 86) Hyosueng Bae, Masakazu Shirasawa, Serah Choi, Xiujuan Yu, Shinichi Okada, Naoko Shinomoto: "A Study on the Factors Relating to the Amount of Time Required by Case Managers for the Frail and Elderly in Japan" The Gerontological Society of America 64th Annual Scientific Meeting, Boston, USA, 2011.11.18~22, pp.71 (2011)
- 87) 廣田新平, 柴喜崇, 荻野裕(MD), 高瀬幸, 畠山莉絵: パーキンソン病患者の症状変化が主介護者の睡眠障害へ及ぼす影響. 理学療法学 (学会特別号) 38:106, (宮崎), 2011
- 88) 深谷太郎, 藤原佳典, 金憲経, 齋藤京子, 桜井良太, 小林和成, 田中千晶, 渡辺修一郎, 小川貴志子, 鈴木克彦, 吉田裕人, 岡部たづる, 干川なつみ, 土屋由美子, 新開省二: 温泉施設を活用した複合的介入プログラム『すぷりんぐ』 介入終了一年後の状況. 第70回日本公衆衛生学会総会. 2011年10月20日.
- 89) 藤原佳典, 齋藤京子, 桜井良太, 安永正史, 渡辺修一郎, 小川貴志子, 鈴木克彦, 荒木厚, 新開省二: 地域在住中高年におけるAI、中心血圧と体組成の関連. 第53回日本老年医学会学術集会. 2011年6月16日.
- 90) 堀内裕子, Florian Kohlbacher: イノベーション採用に影響を与える要因－高齢者における携帯電話の利用について－. 第6回日本応用老年学会総会, 神戸市, 2011年11月11日
- 91) 本田春彦, 植木章三, 高戸仁郎, 犬塚剛, 荒山直子, 入江由香子, 河西敏幸, 芳賀博: 地域在住高齢者における抑うつとその関連要因－基本チェックリストを用いた検討－, 日本公衆衛生雑誌 58(10): 314, 2011.
- 92) 松井妙子・白澤政和他: 「在宅高齢者に対する訪問看護・訪問介護・居宅介護支援のチーム活動に関する研究(2)－三事業所特性の単純集計の分析から－」『老年社会科学 第53回大会報告要旨号』2011.6.16~17、日本老年社会学会、pp.356 (2011)
- 93) 松井妙子・白澤政和他: 「在宅高齢者に対する訪問看護・訪問介護・居宅介護支援のチーム活動に関する研究(2)－所属機関特性との関連－」『第10回日本ケアマネジメント学会研究大会抄録集』2011.6.16~17、日本ケアマネジメント学会、pp.95 (2011)
- 94) 松井妙子・白澤政和他: 「在宅高齢者に対する訪問看護・訪問介護・居宅介護支援のチーム活動の実践度に関する要因(1)対象者の特性と職場環境に焦点をあてて」第16回日本在宅ケア学会学術集会、東京、pp.124 (2012)
- 95) 前田志名子: 看護職と介護職の連携促進－看護職から話を聴く: 第20回日本健康医学

会（東京）

- 96) 三澤久恵：高齢者スピリチュアリティ評定尺度開発研究の概要と課題, 老年社会科学学会, 33(2), 219, 2011. 6.
- 97) 森田彩子、兪今、兪峰：閉じこもり予防・支援策としての運動器の機能向上プログラムの有効性. 第 53 回老年社会科学大会；東京 2011
- 98) 山元友子, 渡辺修一郎：市部中高年者の健康や介護予防に関連する用語の認知度および関連する知識の実態. 第 70 回日本公衆衛生学会総会. 2011 年 10 月 20 日.
- 99) 山崎幸子, 中野匡子, 斉藤恵美子, 高橋和子, 植木章三, 牧上久仁子, 安田誠史, 安村誠司：高齢者の閉じこもりとうつ傾向の因果関係－LOVING プロジェクト－, 日本公衆衛生雑誌 58(10)：314, 2011.
- 100) J Jin Yu, Naoakira Niino, feng Yu, Ayako Morita, Shunji An, Hiroshi Haga: Effectiveness of Positive Psychology Approach in Preventing Late-Life Depression. Second World Congress on Positive Psychology July 23-26, 2011 Philadelphia, Pennsylvania USA ; 2011
- 101) Jin Yu, Naoakira Niino, et al : Effectiveness of Positive Psychology Approach (PPA) to Decrease Depression Symptoms in Older Adults in Relationship to Changes in Other Mental Health State. 9th Asia / Oceania Congress of Geriatrics and Gerontology. Melbourne, Australia, 2011/10
- 102) Jin Yu, Naoakira Niino, et al : Effectiveness of Positive Psychology Approach in Preventing Late-Life Depression, Second World Congress on Positive Psychology, Philadelphia, 2011/7
- 103) Jin Yu, Naoakira Niino, F. Yu, A. Morita, S. An, H. Haga : Effectiveness of Positive Psychology Approach (PPA) to Decrease Depression Symptoms in Older Adults in Relationship to Changes in Other Mental Health State. 9th Asia / Oceania Congress of Geriatrics and Gerontology. 2011.10
- 104) Jin Yu, Naoakira Niino, feng Yu, Ayako Morita, Shunji An, Hiroshi Haga : Effectiveness of Positive Psychology Approach (PPA) to Decrease Depression Symptoms in Older Adults in Relationship to Changes in Other Mental Health State. 9th Asia / Oceania Congress of Geriatrics and Gerontology October 23-27, Melbourne, Australia ; 2011
- 105) Jin Yu, Naoakira Niino, feng Yu, Ayako Morita, Shunji An, Hiroshi Haga: Effectiveness of Positive Psychology Approach in Preventing Late-Life Depression. Second World Congress on Positive Psychology July 23-26, 2011 Philadelphia, Pennsylvania USA ; 2011
- 106) Xiujuan Yu, Hyosueng Bae, Shinichi Okada, Masakazu Shirasawa: “Characteristics of Time-Consuming Cares in Care Management Practice of Japan”

21st Asia-Pacific Social Work Conference, Tokyo, Japan, 2011.7.15~18, pp.273 (2011)

- 107) Xiujuan Yu, Naoko Shinomoto, Hyosueng Bae, Shinichi Okada, Masakazu Shirasawa, Kasahara Sachiko, Renzetti Andrea: "Characteristics of the Most Time-Consuming Cases in Case Management Practice in Japan" The Gerontological Society of America 64th Annual Scientific Meeting, Boston, USA, 2011.11.18~22, pp.10 (2011)
- 108) 兪今、新野直明、他：うつ予防介入が地域高齢者のメンタルヘルスへの影響、第 26 回日本老年精神医学会、東京、2011 年 6 月
- 109) 兪今、新野直明、兪峰、森田彩子、安順姫、芳賀博：PPA 介入が地域高齢者のメンタルヘルスへの影響。第 26 回日本老年精神医学会；東京、2011 年
- 110) 兪今、咸永煥、金成龍、崔範日、張慶稿、安順姫、兪峰：中国東北地域住民における精神的健康度と生活習慣病の関連。第 76 回日本民族衛生学会総会講演集, 2011 ; 246-247
- 111) 兪秀娟・白澤政和他：「ケアマネジメントで時間がかかるケースの特徴ー最も時間がかかるケースの因子分析を介してー」『第 10 回日本ケアマネジメント学会研究大会抄録集』2011.6.16~17、日本ケアマネジメント学会、pp.100 (2011)
- 112) 兪峰、兪今、安順姫、崔範日、咸永煥、金成龍、張慶稿：中国東北地域中高年者における疾病に対する効力感と生活習慣病の関連。第 76 回日本民族衛生学会総会講演集, 2011 ; 256-257
- 113) Taemi Yoshie, Jin Yu : Related factors of senior citizen community-based volunteer programs. 9th Asia / Oceania Congress of Geriatrics and Gerontology October 23-27, Melbourne, Australia ; 2011
- 114) 吉田綾子：特別養護老人ホームにおける中堅介護福祉士の仕事継続意思：老年社会科学 32 (2) : 237-237. 2010
- 115) 吉江悟・白澤政和他：「家族が評価する介護保険利用前後の高齢者の状態変化ー認知症群と非認知症群の比較よりー」『第 10 回日本ケアマネジメント学会研究大会抄録集』2011.6.16~17、日本ケアマネジメント学会、pp.107 (2011)
- 116) 渡辺修一郎、永翁幸生：介護保険の保険者機能評価に関する研究。第 70 回日本公衆衛生学会総会。2011 年 10 月 20 日。
- 117) 渡辺修一郎、兎澤恵子、藤原佳典、安永正史、桜井良太、齋藤京子、金美芝、金憲経、新開省二、田中千晶：3 ヶ月の運動訓練が運動及び入浴前後の血圧変動に及ぼす影響。第 53 回日本老年医学会学術集会。2011 年 6 月 16 日。
- 118) 渡辺修一郎：社会参加と健康生きがい。健康生きがい学会第 2 回大会。2011 年 11 月 23 日。